

根据最新日本语能力测试出题基准编写

日本语能力测试精解

一级读解篇

主审 細木洋 長山優子

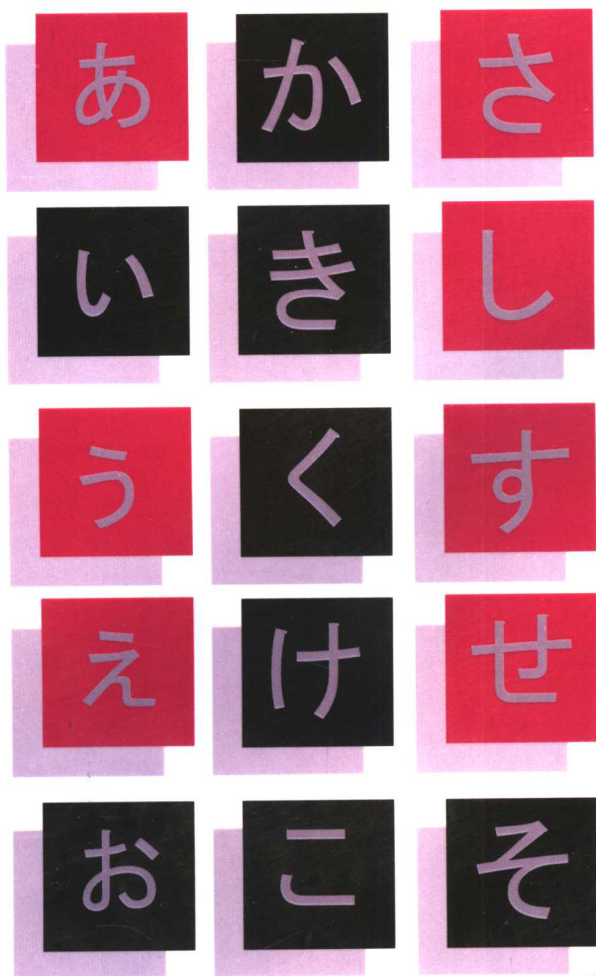
主编 崔崙 副主编 赵世海 朱 佳

■ 考前强化训练

■ 突破考点难点

■ 掌握答题技巧

■ 最新真题详解



吉林大学出版社



日语能力测试精解

一级读解篇

主 审	細木洋	長山優子
主 编	崔 崑	
副主编	赵世海	朱 佳
编 委	王丽莉	孙小菲 刘凤荣
	刘建男	任冬娜 杨柏宏
	单瑜阳	柳晓东 罗雪梅
	徐丽	
	曾	



吉林大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日本语能力测试精解/崔崑编. —长春:吉林大学出版社. 2005. 11

ISBN 7-5601-3317-7

I. 日... II. 崔... III. 日语—水平考试—自学参考资料 IV. H360.41

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2005)第 108692 号

责任编辑:张显吉

封面设计:杨 路

版式设计:佟 玲

责任校对:李 娜 凡素平

出版发行者:吉林大学出版社

地址:长春市解放大路 125 号

邮编:130012

印 刷 者:丹东印刷有限责任公司

经 销 者:各地新华书店

开 本:787mm×1092mm 1/16

印 张:71

出版时间:2005 年 11 月第 1 版

印刷时间:2005 年 11 月第 1 次印刷

定 价:102.40 元

总 序

日本语能力测试是日本国际交流中心和日本国际交流学会为全世界的日语学习者设置的一项国际性日语水平考试。自 1984 年开设以来,每年 12 月在全世界几十个国家和地区同一时间举行。据统计,在我国每年有十几万人参加考试,规模大、范围广,被人们俗称为 JRE。

近年来,随着我国整体实力的增强,国际交往的日趋频繁,日语越来越受到社会各届的青睐。日本语能力测试不仅能检验日语学习者的日语能力,而且其中高级证书——一、二级合格证书,还在升学、求职、留学等场合发挥重要的作用。为了满足社会各界及日语学习者的需要,我们编写了这套《日本语能力测试精解》。

全套书共分八册,一级四册:《日本语能力测试精解一级文字·词汇篇》《日本语能力测试精解一级听解篇》《日本语能力测试精解一级读解篇》《日本语能力测试精解一级文法篇》;二级四册:《日本语能力测试精解二级文字·词汇篇》《日本语能力测试精解二级听解篇》《日本语能力测试精解二级读解篇》《日本语能力测试精解二级文法篇》。

每册分为总序、目录、概述、试题、真题、试题解答解说、真题解答解说、参考答案、参考文献等。与同类书相比,本书有以下几个特点:

1. 选材新颖。本书所用资料均选自于日本最新出版的有关日本语能力测试的参考资料、模拟试题及相关材料。

2. 画龙点睛。每册的概述部分都对该部分的内容、特点、重点、注意事项等进行了细致的分析和高度概括。

3. 深入浅出。每册的“试题解答解说”“真题解答解说”是本套书的核心部分。除了给出正确选项外还对该题进行了入木三分的解读。力图使考生和读者知道考点是什么、如何答题、怎样才能加快答题速度。

4. 针对性强。编撰本套书的目的十分明确——通过阅读本套书,使读者顺利通过日本语能力测试一、二级。因此,本套书的编写就是根据日本语能力测试一、二级的各项内容而安排的。

5. 使用方便。全套书虽分为八册,但它们又是互相联系的一个整体。读者可根据自己的情况有重点、有主次地分步练习,也可按照二级→一级的顺序,由浅入深地学习。

我们真诚希望通过本套书的学习,读者能在考前做好充分准备,并在最短的时间内提高自己的日语整体实力,顺利通过考试。

崔 崑

2005 年 7 月

目 录

一、讀解概述	1
二、一級讀解試題	2
第一单元	2
第二单元	13
第三单元	22
第四单元	32
第五单元	42
第六单元	51
第七单元	60
第八单元	68
三、真題	77
(一)2003 年真題	77
(二)2004 年真題	86
四、一級讀解試題解答解說	96
第一单元	96
第二单元	100
第三单元	105
第四单元	109
第五单元	114
第六单元	118
第七单元	121
第八单元	126
五、2003 年真題解答解說	130
六、參考答案	135
(一)一級讀解試題	135
(二)真題	137
參考文獻	138

一、読解概述

(一) 读解概述

读解(或说阅读理解)部分是日本語能力测试中最重要的一项,也是分值较多的一部分。它的目的是测试应试者对阅读文章的理解能力,即从篇章的角度测试应试者的语言综合运用能力、理解能力及掌握语言的熟练程度。

读解题要求以较快的速度(每分钟约 200 个字)阅读一般题材(科普、社会、文化、史地、风俗、人情等)和各种文体(说明文、叙述文、应用文、议论文、散文等)的短文。

1. 读解题的要求一般是:

- (1) 理解文章的中心和大意。
- (2) 掌握用以阐述文章中心的事实和有关细节。
- (3) 依据文章中的信息进行判断和推测。
- (4) 领会文章作者的观点和意图。

读解题的特点是题量大、题材广泛、测试点多。

2. 阅读题量(以 2004 年试题为例):

一般由一篇较长的文章(或某篇文章的部分章节)和九篇较短的文章(或部分段落)组成,共约 12,000 字,21 问。

3. 题材:

文章题材广泛,涉及到日本的方方面面。如政治、经济、社会、文化、教育、体育、科学、技术、风俗、人情、历史、地理等。

4. 测试点:

- (1) 指示代词的指代内容。
- (2) 重点词句。
- (3) 文章的大意、主旨。
- (4) 文章逻辑关系的来龙去脉。
- (5) 文章细节的把握。
- (6) 辨析语法。

(二) 出题形式

读解题一般是给出一篇文章,随后就文章的内容提出问题(上述几方面测试点)。

读解的文章形式、篇幅及设问数目每年略有调整。下面以 2004 年度二级读解题为例,介绍其出题形式。该题分为「問題Ⅰ」、「問題Ⅱ」、「問題Ⅲ」三部分。「問題Ⅰ」为一篇较长的文章,共六问。「問題Ⅱ」由三篇文章组成共十问。「問題Ⅲ」由五篇短文组成,每篇短文各有一问或两问。「問題Ⅰ」、「問題Ⅱ」、「問題Ⅲ」的每问中各有四个选项,考生应从中选择一个正确答案。

(三)测试点分析

现将读解题测试点分析如下:

1. 对重点词句的理解(如接续词、副词等)。
2. 对作者观点、意图的领会。
3. 对文章中心的把握。
4. 对文章中细节的理解。
5. 对文脉的理解。
6. 对指示代词指示内容的掌握。

要做好读解题,最重要的是读懂文章、读懂问题。首先通读一遍文章及文章后所列出的问题,然后再细看文章,做出正确的判断。

二、一級読解試題

第一单元

問題Ⅰ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

100年ほど前にあたる1900年のとき、地球上の人口はおよそ16億人であった。それが現在、55億人になっている。私たちが金魚鉢の金魚だと思えばよい。3匹の金魚が突然3.5倍の11匹に増えれば水が濁るように、3.5倍も人口が増えれば環境に何らかの悪い影響が出るのは当然であろう。この人口のまま止まればまだよいのだが、(中略)たいへんな勢いでまだ増え続けている。1991年での世界人口の増加率は1.7%と推定されているが、それで計算すると、人口は40年間で倍増することになる。この増大傾向の修正のためには、地球上の私たち全員のライフスタイルの見直しが急務である。それにはどのような課題があるのだろうか。(中略)1つは私たち全員の価値観の問題である。伝統的価値観として「子沢山」が望ましいと見なす民族は世界でも少なくない。私たちの民族もそうである。子沢山を祝福する気持ちが私たちの国では現在でもあり、にぎやかな家庭の幸福像を描きがちである。1989年に、1人の女性が一生の間に平均して何人の子供を産むかという合計特殊出生率が1.57になったときに、1.57ショックといって大騒ぎになった。その騒ぎも、この価値観と関連している。そのときに、子供が1人ではかわいそうだが、日本の将来の労働力の減少をどうするのか、というような指摘があった。自民族の人口の減少に対する警戒心はたいへん強いのである。もちろん、ここでは国や民族レベルでの議論をしているのであって、個別の家族の子沢山の是非を論じているのではない。

2つ目の問題は社会システムの問題である。とくに貧困と差別について考える必要がある。国の経済力不足などで国の社会保障が十分でないと、老後などを心配して国民はある人数の子供をつくろうとする。また、貧しい家族は子供に家族の労働力を期待して子沢山になる傾向が見られる。

さまざまな差別が人口に関わるライフスタイルに影響を与えるが、とくに男女差別は直接的な影響を与える。環境と開発に関わる世界委員会がまとめた「地球の未来を守るために」(Our Common Future)は女性の地位の向上が子供数の減少につながると指摘したが、これは大切な指摘であろう。女性の地位が向上すれば、家族内での子供を産むかどうかということについて女性の発言権が増大し、そのような社会においては子供の数が減少する。また、女性の雇用機会が十分に与えられている社会では、婚姻年齢が上昇し、そのことが子供数の減少につながっているという。

(鳥越皓之編『環境とライフスタイル』有斐閣アルマによる)

- (注1) ライフスタイル:生活する上での価値観や考え方、生活様式
 (注2) 子沢山:子供の数が多いいこと
 (注3) 婚姻:結婚

【問1】 ①「この人口のまま止まればまだよい」とあるが、どういう意味か。

- 1 人口はまだ勢いよく増えているから環境を守ることができる
- 2 人口の増加率が現在と同じ程度であれば環境への影響はない
- 3 今以上に人口が増えなければ環境の悪化もそれほどではない
- 4 人口が100年前と同じ16億人であれば環境への影響はない

【問2】 ②「ライフスタイルの見直しが急務である」とあるが、どうしてライフスタイルを急いで変える必要があるのか。

- 1 ライフスタイルを変えれば、人口の増加率を低くしていくことができるから
- 2 ライフスタイルを変えれば、人口が増えても環境に悪い影響を与えないから
- 3 ライフスタイルを変えれば、食料生産が間に合って生活が豊かになるから
- 4 ライフスタイルを変えれば、日本でも子供の数を増やすことができるから

【問3】 ③「その騒ぎも、この価値観と関連している」とあるが、どういうことか。

- 1 日本で1人の女性が一生の間に産む子供の数が減ったことは、子供は要らないという現在の家族観に合致するということ
- 2 日本で1人の女性が一生の間に産む子供の数が減ったことは、子供の数が多いいほうがよいという伝統的な家族観に反するということ
- 3 日本で1人の女性が一生の間に産む子供の数が減ったことは、子供は要らないという現在の家族観に反するということ
- 4 日本で1人の女性が一生の間に産む子供の数が減ったことは、子供に数が多いほうがよいという伝統的な家族観に合致するということ

【問4】 ④「国民はある人数の子供をつくろうとする」とあるが、どうしてそうするのか。

- 1 国全体で老人より若い世代が多いほうが、労働力が豊かでいいと考えるから
- 2 平均寿命が短いため、子供もたくさんつくっておいたほうがいいと思うから
- 3 親が死んだあとに、子供が一人残ってしまうのはかわいそうだと思うから
- 4 何人か子供がいれば、年を取ってから世話をしてもらえると考えるから

【問5】 ⑤「そのような社会」とあるが、どういう社会か。

- 1 夫が子供の数を決められる社会
- 2 男女差別がまだ強く残っている社会
- 3 妻の意見が尊重される社会
- 4 老後の保障が十分でない社会

【問6】 この文章のまとめとして最も適当なものはどれか。

- 1 日本の女性が一生の間に産む子供の数が1.57人にまで減ったのは、国や民族の存続に関わる大きな問題だ。

- 2 人口の増大傾向を止めるには、子沢山を望ましいとする価値観を変え、貧困や男女差別をなくす必要がある。
- 3 家庭内の女性の地位が向上し、女性の雇用機会が十分あれば、男女差別もなくなるし環境問題も解決できる。
- 4 地球の環境を守るためには、人口増加率をおさえて100年前の16億人程度にまで減らさなければならない。

問題Ⅱ 次の(1)から(4)の文章を読んで、それぞれの問いに対する答えとして最も適当なものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

(1)年齢というのは、相手を理解する上での重要なキーワード^①だと、わたしは思っている。同じく、自分を理解してもらう上での重要なキーワードでもある。「同じ世代だったんですね。じゃあ、あれ、ご存じでしょ？」ということもあれば、「へえ、十歳違うと、やっぱり考え方が異なってくるものですねえ」ということもあるだろう。

それにわたしは、自分の年齢を恥じたりしていない^②。若くして亡くなる人もいるというのに、わたしはいま現在で半世紀もの年月を生きることができた。いやなことでもいいこともいっぱいあったが、そのどれもが、かけがえのない私の人生^(注1)、一年たりとも否定したりごまかしたりしたくはない。

しかし、かなりの文化人ではあっても、女性の中には年齢を公にしたがらない方がけっこういらっしゃるようだ。あるシンポジウム^(注2)に参加した時、パンフレットのパネラー紹介^(注3)で、わたしのところだけ年齢がなかった。他のパネラーは男性で、全員、ちゃんと年齢が記されている。どうしてでしょうと問い合わせると、女性の方は年齢を入れないでほしいとおっしゃる方が多いので、と言われた^③。つまり、勝手に^(注4)気遣って、わたしだけ年齢を伏せて^(注5)くださったというわけだ。よけいな世話である。ひとこと、どうしますかと尋ねてほしかったのにと、かえって腹がたった^④。

(山崎洋子「年齢は堂々と口にしよう」『笑顔』1999年2月号保健同人社による)

- (注1) かけがえのない:他に代えられない、大切な
 (注2) シンポジウム:ある問題についての意見や研究結果の発表会
 (注3) パネラー:シンポジウムなどの講師・発言者
 (注4) 気遣う:相手のために思って、いろいろ配慮する
 (注5) 伏せる:人に知られないようにする。知らせない

【問1】 ①「重要なキーワードだ」とあるが、なぜキーワードなのか。

- 1 お互いを理解するのに重要な手掛かりになるから。
- 2 自己紹介の時に言わなければならない事柄だから。
- 3 見かけにだまされないようにするのに重要だから。

4 年齢が違えば話し方を変えなければいけないから。

【問2】 ②「自分の年齢を恥じたりしていない」とあるが、なぜ恥じたりしないのか。

- 1 これからも長生きをする自信があるから。
- 2 今までの人生は自分にとって貴重だから。
- 3 いやなことをたくさん解決してきたから。
- 4 本当の年齢よりももっと若く見られるから。

【問3】 ③「女性の方は年齢を入れないでほしいとおっしゃる方が多いので、と言われた」とあるが、だれに言われたのか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 パネラーの男性 | 2 文化人の女性 |
| 3 シンポジウムの主催者 | 4 シンポジウムの参加者 |

【問4】 ④「かえって腹がたった」とあるが、なぜ腹がたったのか。

- 1 年齢を書かletくなかったのに、書かれてしまったから。
- 2 パネラーは自分だけが女性で他の人は皆男性だったから。
- 3 文化人であっても年齢を公にしたがらない女性が多いから。
- 4 相手が、筆者も年齢を書かletたくないだろうと考えたから。

(2)「ごちそう」は、もともと「馳走」という漢語から出た言葉です。「馳走」は「走りまわる」「かけめぐる」という意味ですが、つまり、食事を作るために、その材料を集めるのに、あるいは煮たり焼いたりするのに、身体をいそがしく動かさなければならず、その労苦へのねぎらいと感謝から発せられる「あいさつ」のことばで、「ご苦労さまでした」「お疲れさまでした」「お造作をかけました」「ありがとうございました」といったニュアンスのことばであるわけです。

だから、なにも料理にかぎったことではなく、たとえばとなりの家へもらい風呂に行ったとき、風呂に入った帰りがけに、「ごちそうさまでした」というあいさつが、今でもつかわれる場合があるのではないかと思います。

ことにむかしは、風呂ひとつたてるにしても、風呂おけに水を汲み入れ、たきぎを集めたり、つきっきりで火を燃やしたり、大変な労働をとまなう仕事であったわけですから、なおさら、「ごちそうさまでした」というあいさつがつかわれても、少しも変ではなく、また、そこにこめられた気持ちには深いものがあつたといえるでしょう。

(中略)

「ごちそうさま」は、料理そのものより、むしろ人間の心に向けて発せられる「あいさつ」なのです。

ついでにいうと、料理屋で食事をしての帰りに、店の人に、「ごちそうさま」という人がいますが、わたしは、それはあまりそぐわないと思っていて、つかいません。「お世話さま」というのをつかいます。

もらい風呂をして、「ごちそうさまでした」といっても、お風呂屋さんでは、そうはいわない。お風呂屋さん料理屋さん、それが商売であり、そこで、「ごちそうさま」という

のは、度をすぎたお世辞になり、いやらしいと感じるのです。「あいさつ」のことばにも、それをつかう場合の節度があるべきだと思います。

(注7)

(川崎洋『ことばの力』岩波ジュニア新書による)

(注1) ねぎらい:ご苦労様と思う気持ちを表す言葉や行為

(注2) 造作:面倒、手数

(注3) もらい風呂:自分の家に風呂がないので、近所の家風呂に入らせてもらうこと

(注4) たてる:わかす

(注5) たきぎ:燃料にする木

(注6) そぐわない:ふさしくない

(注7) 節度がある:適度で、行き過ぎがない

【問1】 となりの家へもらい風呂に行った後で、①「ごちそうさまでした」と言うのはなぜか。

- 1 風呂に入ると食事をしたときと同様にいい気持ちになるから。
- 2 風呂をたてた人の労働に感謝の気持ちを表す言い方だから。
- 3 むかしは、もらい風呂の後で夕食もごちそうになったから。
- 4 むかしは、「さようなら」のあいさつとしても使われたから。

【問2】 ②「つかいません」とあるが、筆者が料理屋で「ごちそうさま」を使わないのはなぜか。

- 1 商売をしている人が忙しく動くことは当たり前で、必要以上の感謝の気持ちは適当ではないから。
- 2 お金を払っているのに、あまりおいしいとはいえない料理が出てくる場合が多いから。
- 3 「ごちそうさま」は「お世話さま」と同じニュアンスなので、商売をしている人に使うのはおかしいから。
- 4 今の料理屋では走りまわったりかけまわったりして料理を作ることがなくなったから。

【問3】 「ごちそうさま」は本来どんな気持ちを伝える言葉か。

- 1 おいしいものをたくさん食べて、満足したという気持ち
- 2 走りまわったり、かけめぐったりして忙しいと思う気持ち
- 3 食事に恵まれたことを神や自然に感謝する気持ち
- 4 自分のために忙しく働いてくれた人に感謝する気持ち

(3)その教授は、人間の脳がどのような作用によって活性化されるのか、という問題について話を進め、交通事故によって脳の一部をひどく損傷してしまった少年の実例を挙げた。(中略)

少年の脳の損傷具合はかなりひどいものだったので、医師は両親にその旨を告げ、たとえ手術がうまくいっても植物人間になることは免れないと宣告。その上で手術をしたわ

(注2)

けが、リハビリの階段で少年に対してできるかぎりの愛情を注ぐことを、両親に勧めたらしい。^(注3)たとえ寝たきりで反応がなくても、一日じゅう手や足をさすってやり、優しく励ましてやるようにと指示したのである。両親は愚直なまでにこの指示を守り、来る日も来る日も少年の手足をさすり、励まし続けたという。^(注1)(②)、本来なら障害が起きてしかるべきであるはずの少年の脳は活発に働き始め、植物人間どころが、退院の日にはジョギングをしても大丈夫なほど回復したのだそうである。

「少年の退院の日は、まさに感動的でありました」^③

と教授は瞳を潤ませながら語っていたが、この事例から彼が引き出した結論(というか未だ仮定なのかもしれないが)は、人間の脳は“誰かに受け入れられる”という前提のもとに、活発に働くということであった。受け入れられるというのはどういうことかという、これはとりもなおさず愛されるということである。ようするに愛し、愛されるという刺激がなければ、人間の脳は活発に働かないし、創造性も高まらないのである。

(原田宗典『幸福らしきもの』集英社による)

(注1) 活性化:刺激を与えて、働きを活発にする

(注2) その旨:その内容

(注3) リハビリ:体が不自由になった人が社会生活にもどれるようにする訓練

(注4) 愚直なまでに:愚かだと思われるほどまじめに

【問1】 ①「その上で手術をした」とはどういうことか。

- 1 命は助かるがジョギングできるほど回復はしないとってから手術をした。
- 2 脳の損傷がひどいので、助かる見込みはないとってから手術をした。
- 3 命は助かって寝たきりで反応がなくなることを伝えてから手術をした。
- 4 脳の損傷はひどいが、手術をすれば元どおりになると約束して手術をした。

【問2】 (②)に入る最も適当な言葉はどれか。

- | | |
|--------|---------|
| 1 その場合 | 2 そのかわり |
| 3 そのとき | 4 その結果 |

【問3】 ③「まさに感動的でありました」とあるが、何が感動的なのか。

- 1 退院の日に少年がジョギングをしながら帰ったこと
- 2 手術を担当した教授が話しながら瞳を潤ませたこと
- 3 ひどいけがだったのに手術により障害が防げたこと
- 4 親の励ましによって少年が予想以上に回復したこと

(4)日本では、政治家に限らず、選挙が行われる前に、しばしば話し合いによって当選者が決まっていることが多い。たとえ選挙が行われても、それは形式的なもので、実際に^(注)は、前もって選ばれていた人が勝利を収める結果が、既に作られていることがよくある。

問題点に関して、徹底的に論争を行い、相手を打ち負かした方が人気を得て選挙に勝つ

という、民主主義の原点とも言うべき選挙のやり方が、なぜ日本では行われ^①ないのである
うか。

「黙^②って俺について来い」という指導者は、日本では長続きしない、と言われている。日本の指導者は、先頭に立って集団を引っ張っていくのではなく、いくつもある意見の調整役なのだ。つまり、強い個性と明確な方針を持っているような人物は、自分の意見にこだわりすぎるため、他の意見を受け入れない。すると、彼によって受け入れられなかった人々が、もともとはそれぞれ違う意見を持っていたにもかかわらず、団結して反乱を起こし、彼は指導者の地位を追われてしまうことになる。それよりは、一つ一つの意見に耳を傾け、何とか妥協点を見付けて、だれもが賛成できるような一つの結論へとみんなを導いていく、そのような人物がありがたがられるのである。

日本の首脳が国際会議の場で、はっきりした見解や意見を言わず、ひたすら各国首脳の聞き役に回っているのも、そのような調整役^③を果たそうとしているのである。

(注) 形式的なもの:内容を重視せず、決められた手続きに従っているようす

【問1】 ①「日本では行われ^①ない」選挙とは、どんな選挙のことか。

- 1 十分に論争をし、それに勝った人が当選する選挙
- 2 決められた方法によって形式的に行われる選挙
- 3 話し合いによって当選する人を決めてしまう選挙
- 4 前もって選ばれていた人が結局勝つような選挙

【問2】 日本では②「黙^②って俺について来い」という指導者が長続きしないのはなぜか。

- 1 はっきりした見解や意見を述べようとしないので、人に信頼されないから
- 2 自分の考えを強く持ち、他人の意見を聞かないので、敵ができてしまうから
- 3 民主主義的な選挙を行わず、指導者として失格だと見なされるから
- 4 他の人と論争になったとき、相手を打ち負かすことができないから

【問3】 ③「そのような調整役^③」とはどのようなことをする人か。

- 1 論争をして相手を打ち負かす人
- 2 だれを選ぶか前もって決める人
- 3 先頭に立って集団を引っ張っていく人
- 4 周りの人の意見を聞き妥協点を導きだす人

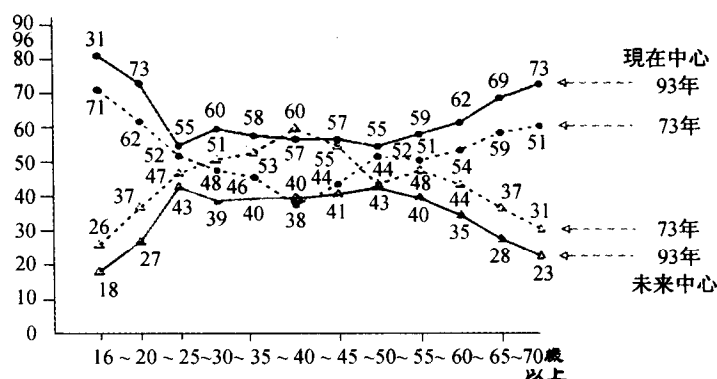
問題Ⅲ 次の(1)から(3)の文章を読んで、それぞれの問いに対する答えとして最も適切なものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

(1)NHK放送文化研究所では、1973年から5年ごとに、生き方、家庭のあり方、政治、宗教、社会正義といったことについて、日本全国の16歳以上の男女約5400名を対象に面接調査を行っている。

この調査の中に、「人によって生活の目標もいろいろですが、リストのように分けると、あなたの生活目標に一番近いのはどれですか。」という質問がある。回答者は次の4つの中から答えを選ぶことになっている。

1. その日その日を、自由楽しく過ごす。
2. しっかりと計画をたてて、豊かな生活を築く。
3. 身近な人たちと、なごやかな毎日を送る。
4. みんなと力を合わせて、世の中をよくする。

下のグラフは、この質問について1973年と1993年の結果を比べたものである。ここでは、回答の1と3をまとめて「現在中心」(グラフでは●)、2と4をまとめて「未来中心」(グラフでは△)としてある。



生活目標—「現在中心」、「未来中心」(年層別)

(グラフはNHK 放送文化研究所編『現代日本人の意識構造 第四版』日本放送出版協会による)

【問い】 73年(-----)と93年(——)を比べると、30歳代から40歳代についてどのようなことが言えるか。グラフと説明が合っているものを選びなさい。

- 1 73年では「未来中心」の生き方を目指す人が多いのに対し、93年では身近な人々と自由楽しく過ごそうとする「現在中心」の方が多くことから、今の生活を大切に考える傾向が強くなってきたことがわかる。
- 2 73年では「現在中心」の生き方を目指す人が多いのに対し、93年では豊かな生活を目標にしてみんなと力を合わせていこうとする「未来中心」の方が多くことから、将来の生活を大切に考える傾向が強くなってきたことがわかる。
- 3 73年と93年のどちらも、今を楽しく生きられればそれでいいという「現在中心」の生き方が、将来のために努力しようという「未来中心」の生き方より重視され、今の生活を中心に考えていることがわかる。
- 4 73年と93年のどちらも、将来のために努力しようという「未来中心」の生き方が、今を楽しく生きられればそれでいいという「現在中心」の生き方より重視され、将来の生活を中心に考えていることがわかる。

(2)化学物質過敏症は、アレルギーと中毒の要素を兼ね備えています^(注1)が、明らかな違い^(注2)は、今までの概念では考えられない極めて微量な物質に反応するということです。少量を徐々に、あるいは一度に多量にその物質を浴びるとその後、ごく微量でも反応するようになります。

例えば中毒なら100万分の1グラム(ppm)の単位で発症しますが、これは10億分の1(ppb)とか、1兆分の1グラム(ppt)の単位で症状が現れるのです。

中毒ではほとんどの場合、摂取量と症状の現れ方に個人差がなく、量が増えるに従って重くなり、一定量を超えると死に到ります^(注3)(致死量)。ところが、化学物質過敏症の場合は、同じ環境にあっても症状が出たり出なかったりと個人差が大きく、スギ花粉症で苦しんでいる人の隣に平気な人がいるというアレルギーに似ています。

(難波龍人「家が原因で起こることが多い化学物質過敏症」

『婦人之友』第93巻第2号 婦人之友社による)

(注1) 過敏:敏感すぎること

(注2) アレルギー:ある物質に対して敏感に反応すること

(注3) 摂取:体の中に取り入れること

【問い】 化学物質過敏症の説明として正しいものは次のどれか。

- 1 中毒になる量とアレルギーになる量の中間の量を一度に浴びると、症状が出る。
- 2 中毒とは違って症状に個人差があり、非常に少ない量にも反応して症状が出る。
- 3 中毒と似て、ある物質を浴びると摂取量に関係なく反応し、重い症状が出る。
- 4 中毒にもアレルギーにも似た性質があり、量が増えるに従い、重い症状が出る。

(3)

男の古典的な勘ちがいの最たるものは、女性は家事がきらいではないという手前勝手な信仰^(注)だろう。誤解がある。女性の十中八、九は、家事がきらいなのである。それも、大っきらいなのだ。きらいだが、それは仕事だし、ほかにやる人がいないから、しかたなしにやる。手伝^②えつつ、夫は連日仕事で忙しい。本当に、なに^③を^④してるのか、わかりやしないのだが。会社を辞めて家にはいる^⑤となったら、もう猶予^(注)はきかない。夫にも、それ相応の家事をやってもらおう。いままでの償いの分もふくめてだ。たいがい^⑥の女性はそう考えているのではないか。

(高任和夫「転職 会社を辞めて気づくこと」講談社による)

(注1) 手前勝手:自分勝手な、自分だけの都合を考えた

(注2) 猶予はきかない:待ってはられない